

■篠原武司 鉄道技術官僚。東海道新幹線実現の火付け役となり、全国高速鉄道網、本四架橋を構想した国土のデザイナー。

しのはらたけし
満鉄発足・・・1906＝ 東京江東区清澄で生まれる。

明治天皇没・1912＝ 6歳：

21ヶ条要求・1915＝ 9歳：

ベルサイユ条約・1919＝13歳： 明治小学校卒業，

原敬首相暗殺1921＝15歳：

関東大震災・1923＝17歳： 関東大震災に遭遇，火災から逃れるべく，家族とともに隣家の池に飛び込んで助かる。

護憲三派圧勝1924＝18歳： 東京府立第一中学校(現・都立日比谷高校)。一中時代，腸チフスに罹り九死に一生，

金融恐慌・・・1927＝21歳： 初の地下鉄(上野～浅草)が開業した年，第一高等学校を卒業し，東京帝国大学工学部土木工学科に入学，

世界恐慌・・・1929＝23歳： 清水トンネルが貫通し，

海軍軍縮条約1930＝24歳： 東京～神戸間に特急つばめが運転開始された年，卒業して，_鉄道省に入省。

満州事変・・・1931＝25歳：

国際連盟脱退1933＝27歳： 軍工兵少尉，

芥川直木賞始1935＝29歳： 鉄道省鉄道局技師，

日中戦争始・1937＝31歳： 充員召集に応召し，陸軍鉄道第一連隊小隊長，

健保+総動員 1938＝32歳： 陸軍工兵中尉・中隊長となり，徐州作戦に従軍，貫通銃創を受けて，妻のもとには戦死の誤報，

大政翼賛会・1940＝34歳： 金鵄勲章を受け，召集解除。この年の帝国議会で，東海道山陽道「弾丸列車計画」が建設決定，

日米開戦・・・1941＝35歳： 関門海底トンネルが開通するのに合わせて，新丹那ほか3つのトンネル掘削開始，

・・・・・・1942＝36歳：

創価学会検挙1943＝37歳： 鉄道省は，運輸通信省 鉄道総局に組織変更，

年金+総武装 1944＝38歳： 勲四等瑞宝章。_広島鉄道局施設部総務課長，

敗戦・・・・・・1945＝39歳： 運輸省鉄道総局に組織変更。_たまたま早く出勤して原爆投下死は免れるも被爆して，敗戦を迎える。

三大事件・・・1949＝43歳： 広島鉄道局施設部長となり，_発足した公共企業体日本国有鉄道(国鉄)の運輸総局施設局停車場課長，

朝鮮戦争始・1950＝44歳： _四国鉄道管理局長になるや，かねてからの本州四国連絡橋の構想を具体化しようとして無視されるが，

独立回復・・・1951＝45歳： 国鉄総裁表彰(功績章)。

自衛隊発足・1954＝48歳： 臨時財産管理部長。青函連絡船洞爺丸転覆に続いて，

55年体制始・1955＝49歳： 西部総支配人兼門司鉄道管理局長。_宇高連絡船紫雲丸事件が起きると，真剣に検討されるようになる。

国連加盟・・・1956＝50歳： _東海道本線全線が電化されると，大阪鉄道管理局を説得して，京阪神地区を深夜に通過する寝台特急“あさ

かぜ”を走らせ，それまで22時間程度かかっていた東京・博多間を，17時間25分で結ぶダイヤを実現。

なべ底不況・1957＝51歳： *鉄道技術研究所所長になる。施設が浜松町，三鷹，国立などに分散し，劣悪な環境だった研究所の整備に心を砕き，国立を本拠に統合すべきと考えていた島秀雄技師長に同調，主要メンバーを率いて世界の鉄道研究所を視察して回って計画をまとめる一方，職員の志気向上のため，研究所で行われてきた基礎研究に詳しく目を通して，高速道路や航空路線が充実し始めて鉄道の斜陽化が懸念されるなか，旅客の安定的な大量輸送が可能な高速鉄道網に活路を見出だし，技研50周年記念に合わせて，銀座で「超特急列車，東京～大阪間3時間への可能性」という講演会を開き，冒頭挨拶で“新幹線構想”を世間に強くアピール。島秀雄国鉄技師長が国鉄内部のコンセンサス形成を理詰めで着々と進め，十河信二国鉄総裁も大物政治家の理解を取り付けつつあるなか，この講演会で国民の関心が高まったことが，新幹線構想の“火付け役”になって，

インスタントラーメン・1958＝52歳： _設置された国鉄幹線調査会が，高速鉄道に関する報告書を提出し，

美智子妃・・・1959＝53歳： _東海道新幹線起工式に至る。

安保闘争・・・1960＝54歳： 総裁表彰(特別功績)。_国立の新研究所の施設すべてが完成し，

イタイイタイ病始・1961＝55歳： _移転が完了するのを見届けて，依願退職し，八幡製鉄の参与となる。

全国総合計画1962＝56歳： 工学博士になり，鉄道建設審議会で高速鉄道輸送の有用性を解説。この年始まったリニアエクスプレス構想には懐疑的で，山梨県を通る従来方式の中央新幹線により，東海道新幹線への集中緩和すべきとした。東京リニア 1964＝58歳： オリニビックに合わせて，東海道新幹線が開業し，内閣総理大臣表彰を受けた年，_日本鉄道建設公団創設と同時に副総裁に就任。公団は東海道・山陽新幹線でなく，地方新線の建設を担当するとともに，国鉄が石田礼助総裁のもとで進めてきた青函トンネル調査工事を引き継いだ。

大学紛争始・1965＝59歳： 最初の国土幹線自動車道名神高速道路が全通，

いざなぎ景気1966＝60歳： _日本土木学会会長に就任し，

美濃部都知事1967＝61歳： *10年前に構想するも無視された「本四架橋ルートに関する中間報告」を発表後，会長退任にあたっての講演「現在の鉄道の再編成」で全国高速鉄道網構築構想を発表すると，田中角栄自民党幹事長が強い関心を示し，

全共闘ピーク・1969＝63歳： 「「新全国総合開発計画(新全総)」で国が整備を主導することとなり，新幹線網構想は，第二国土軸という先人の明のほか多くは捨てられ，政治家の醜い路線奪い合いになってしまふもの，実現に向かい始める。

大阪万博・・・1970＝64歳： 鉄道建設公団総裁。全国新幹線鉄道整備法が制定され，公団が新幹線の建設主体に加えられて，上越新幹線整備にかかわることになるとともに，本州四国連絡橋公団の発足にも関与，

ドルショック・・・1971＝65歳： _上越新幹線着工と同時に，青函トンネル本坑起工式が行われ，たびたびの出水に見舞われるなど，不慮の事故で41人もの犠牲者を出しながらも青函トンネル工事が進められる間，ジャック・モノー「偶然と必然」を読んで感銘，

角栄金脈辞任1974＝68歳： 翌年にかけて，_日本トンネル協会会長，

ケアンブル事件1975＝69歳： 国際トンネル協会理事，_(社)日本トンネル技術協会会長に就任，

田中角栄逮捕1976＝70歳： 土木学会功績賞，交通文化賞金杯，

JALハイジャック・1977＝71歳： 以後3年，_国際トンネル協会副会長，

成田衝突・・・1978＝72歳： 優先順位でもめた本四架橋も，ようやく_瀬戸大橋が着工，

革新大敗北・1979＝73歳： _日本鉄道建設公団総裁を退官。

・・・・・・1981＝75歳： _(社)日本トンネル技術協会会長も退任し，顧問。

中曽根内閣・1982＝76歳： 上越新幹線の営業運転開始，

デイズニューラト・1983＝77歳： 青函トンネル先進導坑貫通，

ジャンボ機墜落1985＝79歳： 青函トンネル本坑貫通，

竹下登内閣・1987＝81歳： 巨額の赤字を抱えた国鉄が分割民営化され，新幹線建設当初の話が消えて行くことが危惧される一方，交通インフラとしての新幹線システムが世界各国で導入され始めようとするなか，

ドイツ統一・・・1990＝84歳： 青函トンネルと瀬戸大橋開通，

バブル崩壊・1992＝86歳： 石田財団(13年前に死去したトヨタ自動車石田退三が日本の科学と技術の振興のためにと設立)理事長石田泰一から，新幹線実現の由来をまとめておきたいと懇請され，_高口英茂による聞き書きによる「新幹線発案者の独り言―元日本鉄道建設公団総裁・篠原武司のネットワーク型新幹線の構想」を出版，

小泉内閣・・・2001＝95歳： 肺炎のため，_没した。
高口によれば，篠原は“シビル・エンジニア(土木技術者の英語とされるが，シビルは市民，文官の意のある広い言葉である)”と呼ばれることを好んだという。

高口英茂による聞き書き「新幹線発案者の独り言―元日本鉄道建設公団総裁・篠原武司のネットワーク型新幹線の構想」, Wikipedia「篠原武司」,